

刊夕 日三廿月八

常盤每日新聞

定価 一月五拾銭 三月一拾五銭 半年二拾五銭 一年四拾五銭
発行所 常盤毎日新聞社 電話 六三〇
印刷所 常盤毎日新聞社 電話 六三〇

蘭盆縁起と 施餓鬼經の話

真繼 雲山

四、孟蘭盆會は全人類を描いた姿

いかにすれば救はれるか
それには一年一度の僧自恣の日をえらみ、衆僧威神の力を蒙り、甘味を盡くして供養するがよいとて、事も細かに具体的の方法を經中において示されてゐるのであります。これは單なる二千五百年前の物語りではなく、『汝が母、罪根深結』との御言葉は、饑饉にして飽くことを知らぬ一切の人類、己が名譽と金のために、他を押し退けても恥づることを知らぬ、一切の人類——さうした今現に生きてゐる私たち一切の人類を代表せしめられた思し召と

ノート

我が海軍の潜水艦は水上排水量一千噸以上を一等潜水艦一千噸以下を二等潜水艦と定められてゐる

拜するのであります。されば既に逝ける有縁の先亡は、今頃は何處かで、罪苦の業果に泣いてゐることでありませう。斯く考へる私たちも、やがて百年を

待たずして、目連尊者の母人の立場に置かれず済むと誰が保證してくれませうさうした罪業に泣かねばならぬ私たちの三世の相に對して、救ひの門として開かれてゐるのが孟蘭盆會であります。しかもその修法に

明日の献立

【朝】味噌汁、さしげ、小付、紅生姜、かき、玉子煎り煮
【晝】清汁、きす、三つ葉、むし南瓜、絹こ
【晩】焼きたん、ややく、酢みそ

おいて、百味、飲食を供養せよと規定せられてゐる形式は、固より大切でありませうけれども、その根本を貫く精神は、祖先に對する追善、父母に對する孝順の思想であります。この孝順の一念に生きてこそ、先亡父母累代のたましひが、たとひ奈落の底に墮在してゐやうとも、必ず救はれずにはおかぬ理趣あることを想察し得ます。孝ありて世に光りあり、孟蘭盆會は、この孝を中心とせられた教へであるがこそ、三世にわたって尊貴なる光輝を放つてゐるのだと思はれます。

五、孟蘭盆の消遣と一般の習俗

斯うした尊き行事であればこそ天竺、震旦、日域の三國にわたつて、孟蘭盆會は古くより修せられて來ました。

先づ印度にあつては、瓶沙王、須達多者、波斯匿王末利夫人などが、目連の盆法に則りて、五百の金銀、七寶の盆器をつくり、これに百味の飲食を盛つて佛および衆僧に供養し、七世の父母の罪業消滅に資したとありますから、當時の貴族を始め一般民衆のあいだにも弘く盆會が舉行された事と思はれます。

支那にあつては、魏の甘露元年に竺法護が長安に入りてより十七年後の晋の太康二年に始めて孟蘭盆會を修したとの記録があり、梁の武帝の大同四年には帝みづから同泰寺に幸して孟蘭盆齋を設けたとあります。

短歌

栗原 茅村
信濃川原に出で來れば涼しき風の流れたるかも山驛に汽車は停りぬ
驛前の林になける油蟬の聲此日頃朝となれば何鳥か裏竹籥に來てはなき行く

外科 門 專 科 線 光 X

上田外科醫院

平町南町
電話一二九番

石炭 開業

一俵十八錢ヨリ
多少に拘らず御用命下さい、直ちに配達致します。
平町十五丁目
エビスヤ燃料店
電話 四六番
東洋火災保險株式會社平中央代理店

特約三菱ノ...

菊菱號自轉車

(全部マーク入) 實用堅牢車
平局御用 エビスヤ自轉車店
平南町 電話六六四番

看護婦急派

の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

夏!!!

道歩く紳士の足も!
は白靴にかきやく



A 先づ何よりも白靴
足も軽けりや心も躍るよ
B 成程麥莖をかぶつて黒靴で
ちよつと.....へんだね
斷然安い菊地の白靴一九三四年型に
すると云つてやつたがね
四丁目驛通り
既製菊地靴カバン店
電話 六五九番

¥ 1.80 ヨリ
5.00 マデ



氷は魚清!!!

氷の御用命は
電話四六七番へ

平町二丁目警察署通り
魚清氷卸部
支店 江名町築港内
電話 六九番

八月二十三日より三日間(舊十四、十五、十六日)

今秋冬の新流行

吳服大陳列會

江戸づま、丸帯、錦紗小紋、繪羽織、銘仙

三井吳服店

平町

舗道に影を落す

幻妙な念佛狂舞

近代平町の一異彩

本年初めてこの壯觀

最高潮の盆供養

翌日及び翌々日、即ち舊十五、六の兩日は盆祭りの最高潮たる歡樂の巷と化した。一度の壯觀を現出するの「舗道」といふ文化の波から遠く追ひやられた本町街の松焚きも本年からは近代的な電飾「吊り燈籠」と變つて新たに現出した。

「近代平町」の一異彩である一般若人の踊りの本場は何んといつても驛前であらう。櫓の上の元氣な音頭にさしもに廣き驛前

白木造の臺に色彩もあやな絹張りの燈籠のソフト・フォカスされた淡き灯影がページメントに落とすところ十數人の一團の屈強な若者が太鼓と鉦の音に幻妙な狂舞を

に埋り陶酔した數千の觀衆に全く身動きも出来ない難を呈する、また夜明して踊り狂ふ鎌田遊廓——此處ばかりは踊りの治外法權で享樂の温泉だ炬火と踊り正にこれは「歡樂境・平」のクローズ・アップである

新盆の家に

私服張込む

平署の新選組が

街の不良を警戒

平署では例年盆の雑沓に紛れて不良の徒が横行し踊り場等を荒して市民を悩ませるのに鑑み横山署長自ら總指揮となつて特別警察隊新選組を出動盆中の安寧を確保する方針だといふか、踊り子は安心して踊られるわ

げた、踊れ！若者、尚ほ横山署長は語る
年一度の盆であるから踊子の假裝等も緩大にする方針である、また入盆の家を廻つて某しかの錢を貰ふ踊りは、實は遊藝人鑑札を所持しない者は違

臨時列車

盆の平町を

目指す人々に奉仕

置して内偵する事に決定してある
盆の平町を指して雲集する近郷各町村からの踊子や見物人の來往に備へるため平署では左の如き臨時列車を運轉する外各定時列車にも一、二輛の増結を行ふ筈である

▲舊十五日(平發)久ノ濱 行午後六時五十七分 湯本行同十一時二十分 小川郷行同六時二十三分 (平着)久ノ濱發午後七時十分 四倉發同七時十分 川郷發同七時一分
▲四十六日(平發)久ノ濱 行午前零時九分 小川郷行同零時二分 高萩行同一時四十八分

豪勢な炭礦方面

櫓では飲み放題食ひ放題

磐炭、入山、古河等の炭礦では盆祭りを機会に櫓を立て踊り子達に茶菓、氷水、辯當を振舞ふといふ炭礦景氣に拍車をかけられた豪勢さに數年ぶりの盛況を見せるであらう

体操講習

申込者二百

既報体育協會石城支部主催の郡下各小學校教員の体操講習會は來月二十八日より三日間平第一校(一般競技)第二校(球技)及び平商(競

起して辭職した西丸前助役とその後任選定に就いて協議する

縣參一行出納検査

甲乙二班に分れて郡下を

縣參事員の一行は甲、乙兩班に分れて來月二日より六日迄石城郡下の學校官衛を出納検査する筈であるが日割左の如くである

△甲班 田子健吉 鈴木英亮 岩崎光衛 三田暉治 湊秀松(二日)四倉署久ノ濱營業取締所(三日)

磐城中學校 平土木監督所(四日)平署(五日)平蠶業取締所△乙班 萩原義雄 渡邊要助 渡邊祐之 福内和介 片平萬吉(二日)四倉築港(三日)夏井川改修 磐城高女(四日)平縣稅務出張所(五日)植田署

大浦西瓜の品質

茨城産を壓倒す

廿五日に試食會

神谷農事試験分場では三年前より茨城産西瓜との對抗上大浦村農會の西瓜栽培を指導せる結果現在では同村のみでも耕地二町五反に達

では更らに品質向上の爲め來る廿五日午後二時より村役場に關係者を招き同村西瓜の試食會を開くと

社告

今明兩日は舊曆十五六兩日の盆祭りに相當し候間従業員慰安の爲め休利可仕御諒承願上候
追申此間突發大事件は號外を以て速報可仕候
八月廿三日
常警毎日新聞社

江名水道

來月一日起工

江名町の水道工事は工費十萬圓を以て來月一日より施行されるので同町では去る廿二日午後三時から町會を開いて敷地買収に就いて協議したが同水道は將來中ノ作にも延長して漁船及び町民の給水を行ふ由

種牡牛の検査

本郡下に於ける種牡牛の検査は來る九月三日より三日間左記の場所にて行はれるが種牡牛の所有者及び新規出願者は最寄検査場にて受

檢されたいと

(三日)高久村志賀牛乳搾取場 小名濱小濱牛乳搾取場(四日)湯本町大平牛乳搾取場 植田町大野搾取場(五日)平町鈴木搾取場

鹿島村の村會

鹿島村では明廿四日午後一時より村會を招集して小學校敷地決定及び分教場の取壊しの件等を附議する

法曹野球惜敗

平法曹團對警署の野球戦は昨日午後一時より平商球場に於て行れたが延長戦の結果三對二のスコアで法曹團惜敗

平町人事

回出生

△仲間町一六 會我新太郎 氏六男武志
△六間門二 吉田光春氏四女貞子
△七軒町四 甲高三郎氏

市原醫院

平町 田町 電話一四四番

(二九)湯本町天王崎鈴木フクヨ(二八)さん

△大工町一六 當時川前村 宇 倉持ツタさん(五九

鹿島村に怪盜

豪農の土蔵を破る

衣類廿五點を窃取逃走

石城郡鹿島村字坂下豪農四家與一方にて廿二日夜明け前土蔵を破り衣類廿五點(價格百六十圓)を窃取逃走せる怪盜被害あり平署にては犯人嚴探中にて既に目星もつて居る模様であるから今明日中に逮捕さるゝに至るであらうと

家督相續者は

自分だとて訴訟

双葉郡木戸村大字前原字川原北田境松本傳藏(三六)は本日門傳辯護士を代理人として同村伊藤ヨト及び伊藤普治(三三)を相手取り身分權確

新益の

費用節約

労働者に恵む

赤井村字高萩農古市喜三郎氏は本年が亡父の新益に當つて居るので非常時の折柄盆中の諸費用をきり詰め餘

狂ても往年の先生

子供を—
集めて—
街頭教授

見かれた本間君が
盆踊を見物させて旅立す

舊盆を控へて雑沓して居る平郵便局前に一週間位前から毎日何處からともなく現れる黒の背廣にヨレ／＼の麻ズボンをつけた人品卑しからぬ小柄な男が附近の子供を集めて先生氣取りで『學校遊び』を初め子供を遊

ばして居るが

歸る家も

のに同情した南町本間錦店の本間三郎君が三日程自宅に泊めて世話をしてやると本當は自宅があるが旅費がなくて歸れぬとの事に昨廿二日平署の人事係に引渡した

ので署員は又候精神病者の御入來かと呆れたが事情を聞くと此の街の教員(一)は東京市芝區三田四國町二ノ一六號に住み昨年三月迄東京下谷龍泉寺小學校に

訓導とし

た鹿島市鹽谷町生れ伊藤伸(四一)と云ふ今では全治に近い精神柄者にて本月二日一年餘り入院治療中であつた

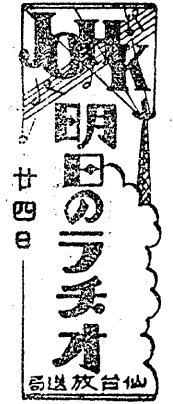
青山腦病院を脱出し日光、松島等を経めぐり歩き双葉郡浪江町で

無一物となり徒歩で

平町までたどり着いたと判り平署では本日水戸驛迄の汽車賃を與へて出發せしめ様とした處本人は是非共平の盆踊を見物し度いと來合した本間君に嘆願するので同君は今晩再び同人を預り盆踊を見物させて明日東京迄の旅費を與へて同人の叔母伊藤ナツさん方へ赴む、させる事になつた

内郷中堅同窓

内郷村農會では明廿四日午後一時より同村御殿小學校に於いて中堅農民同窓會内郷支部の創立發會式並に第一回總會を開いて役員を選定する



今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
歴史劇「松陰先生と金子重輔」廣島松陰研究會
後六、二五 盲人座談會
「暴風雨の富士を撫る」
名古屋盲人旅行團
後七、三〇 物語「雨の佐太郎船」 津田 秀水

後八、〇〇 民話
後八、二〇 浪花節週間第(四日)二五郎正宗孝子傳
後九、〇〇 青年特別講座「農村の窮乏と更生」農林省經濟更生部長 農學博士 小平 權一
後九、三〇 時報ニユース
氣象通報 番組豫告
明日の部

晚酌が不足だと

養父を傷く

いさなり茶碗で
あされた馬鹿婿の暴行

小名濱町字竹町漁夫鈴木淺吉(二一)は昨夜八時頃夕食膳に出された晩酌八合では飲み足りぬと妻ヨシと養父濱吉に喰つて掛かり養父に茶碗を投げ付ける騒ぎに駐在所員に取押へられ本日平署に押送取調中

内郷校同窓會

内郷第一小學校では來る二十六日午前八時半より母校に於て同窓會を開き晝食を共にし餘興に打ち興じ楽しい一日を過す豫定にて會費は二十錢である

母の七年忌にも

歸郷を許されず

少年の無分別から
逃走の途中に悪事を犯す

四倉町字新町生れ當時宮城縣牡蠣郡鮫川村大森庄治方船員谷釜五郎(一七)假名は本年が母の七年忌なのでお盆に實家へ歸るべく船主に交渉したが許されぬので去る廿日鹽釜に入港した際脱出町よねや旅館の自轉車一臺

前六、三〇 夏期英語講座(二一六) 高垣 松雄
前七、二〇 聖典講義(一) 文學博士 宇野 圓空
前七、四〇 六年生のおさらの時間 國史(第四) 齋藤 養治
前八、〇〇 國文學講座 物語(四) 小倉 博
前九、一〇 料理献立 濱田政次郎
前一〇、三五 婦人の時間 「私の女性觀」永田秀次郎
後〇、〇五 獨唱 合唱管絃樂 獨唱 小林千代子
後二、四〇 社會見學(機關庫組立實況) 埼玉縣大

前借を踏み

酌婦逃走

内郷村大字内町字金坂飲食店松本スイ方酌婦安積郡菊田村生れ木元ユキ(三五)は昨夜十二時頃情夫である同村堀坂の高橋清と謀合せ前借二百十八圓を踏倒して逃走したので本日抱主から取押へ方を願出た

草野の義捐金

草野村では過般來北陸水害義捐金を募集したが十五圓程集つたので近日發送すると

警中の同級會

警中第三十一回卒業生は明日午後六時半より二丁目谷口樓に於て同級會を開く
平職業紹介所報告
回人を求める方
△女 中二十前後 尋卒
月十圓
△銀治工 四十以下 尋卒
給料歩合
△荷七夫 三十迄 日給

中村齒科醫院

平町銀治町七

店主	か	店員
を	連	れて
が	れ	る
正	シ	イ 食堂
正	シ	イ 喫茶
正	シ	イ 酒場
平・田町		
ラスト		
サロン		
電二五三番		

近斬立首頭

(藤野上院及上院)

田邊南龍(作)
山本芙蓉(書)

一一七:

お藤を捕へる

「仕方がねえ積善の一ツだ
悪くは報つちやア来ねえ」
「仕方ありません、宜し
うございます」

と河下へ行つて、サアと
云つたら飛込まうと待つて
居る、五郎吉は後に立つて
見てゐると

「南無阿彌陀佛〜」
と云つて居るが更に飛込
まん

「さてはお藤に違ひねえ、
ソレ子分ども〜」

「心得た」
とバラ〜と駆付けて來
て一人が

「待つた……」
と押へる、

「イエ何卒此處を放して下
さるやうに、とても生きて
は……」

「ア、お待ちなさい」
と云ふところへ小喧嘩の
五郎吉がやつて來て

「マア待ちなせえ」
と見ると三十一、左の
頬に黒痣がある。

「ア！この女だ、確乎押へ
てゐろ……三吉身投げぢや
アねえ、貴様は飛込むにや
ア及ばねえ、コレ三吉、小
鼻のところは黒痣がある」
「何を仰しやいます」
「貴様身投げしてえのは〜」

の偽り、杉田金兵衛の女房
目地金のお藤……」
と云ふと彼女は突然懐中
から匕首を取り出して切つて
掛る。

へ歸つて來る、
「明けて呉れ」
「梅野さん明けてお呉れ」
「ハイ」
「小喧嘩の五郎吉が來た、
貴女に好い土産を持つて來
たから」
「何だい土産でえのは」
と明けると一人の女のキ
リキリ縛つた奴を家へ抛り
込みました、長兵衛も目を
覺して

「何うしたんだ」



「ヤ！助けて遣つた俺に手
向ひするとは何事だ、目地
金お藤なら少し此方に用が
ある」

と云ひつゝ拳固で突いた
からバタリと刀を取落すと
ころを細帯をもつてキリキ
リ縛り上げて、もがいてゐ
る奴を、三人して引つ擔い
で、難波菊地の長兵衛の所

「かう云ふ譯」
「そりやア好いことをし
た」

細引を出して真正に縛り
上げて、

「サアお藤、鞍狩時で日外
お主に五兩と云ふ金子を恵
んで遣つた事がある、俺は
幡隨院長兵衛だ、主は白狐
の六藏と云ふ亭主があつて

其奴がこの女の亭主の中西
藤助さんを殺したに違ひな
からう、サア白状しろ」
とビシ〜引つづた
いて居ると、何うしても白
状しないところへ夜が明け
ると通り掛つたのは天満の
御同心で、原勝次郎といふ
人が這入つて來て、

「何んだ」
「實はかう〜いふ譯」
「オ、さうか、この目地金
お藤といふ者は、かねて上
で探案中の女だ、此方が連
れて行くによつて、さやう
心得ろ」

と手札を置いて原勝次郎
が連れて行つてしまふ。

「ア、飛んだ事をした、
お奴が直ぐに白状してしま
へば敵討が出来たが、モー
白状しても上でお處刑にな
つてしまふ、さうすりやア
敵討をする事が出来ねえ、
何うかお藤が白状しない内
に、杉田金兵衛、白狐六藏
と云ふ者を探したい」
と八方へ手を分けて居る
ところが何分わかりません

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い火や湯でヤケドなされた時直ぐツケますればヒ
ブク〜にならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料
で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さ
い。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキ
レイに治ります。

太乙膏
キリ印
ヤケド キリキズ
クサ はだのアレ
ヒ、あかざれ
シモヤケ たゞれ

平町古鍛冶町一〇
阿康薬舗
電話四四番

専賣店

内科 小兒科 花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

磐城共済病院(福島縣平町) (電話六四一番)

小兒科	院長 山謙一郎 (電話六四一番)
婦人科	部長 賀一忠 (電話三七〇番)
外科	部長 坂本眞一郎 (電話二七二番)
耳鼻咽喉科	部長 前澤正
皮膚泌尿器科	部長 山謙一郎
花柳病科	部長 山謙一郎
X光線科	部長 山謙一郎
衛生試験所	部長 山謙一郎
藥局	局長 後利雄
藥劑士	局長 本孝平
事務局長	鈴木木寶雄

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)
◎病室完備 入院隨意

石炭
コークス
玉炭
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

貨切の御用命は
ぜひ…三井自動車部へ!!!
電話六八五番
◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行